


企業等の農業参入の事例

作成:令和3年10月


茶製造・販売業からの農業参入 : (株)茶来未 (ちゃくみ)

業務内容	製造・販売業(藤沢市)	
法人形態	農地所有適格法人	
農業参入時期	平成29年3月	
参入市町村	松田町	
参入規模	参入時53a ⇒ 現在 1.2ha	
主な栽培品目	茶	
農地中間管理事業	利用あり	
参入経緯	<p>お茶の製造・販売をしていたが、生産者であるお茶農家の高齢化が進み、将来のお茶生産や農地の維持管理が難しくなることを憂い、お茶の製造・販売だけでなく栽培から取り組むことで、衰退する地域を元気にしようと決意し農業参入をした。</p>	
経営状況	<p>丹沢山地の豊かな水源林で育まれた自社茶園の管理・製造・販売・卸・原料加工を一貫して行う。神奈川県の新産地ブランドとして「丹沢大山茶」は、スイーツ開発や多数のOEM販売を展開している。</p> <p>日本茶の啓発活動として茶摘み体験や製茶工場での作業体験に取り組むほか、自らが生産したお茶を「水を守るお茶」として販売し、売上げの一部を保水効果や鳥獣被害対策の活動をするNPO法人などへ寄付をする社会貢献活動、さらには地元湘南産の規格外農産物を加工、商品化するなど破棄しない地消地産の取り組みをしている。</p>	

企業等の農業参入の事例

作成:令和3年10月


飲食業からの農業参入 : ロココファーム((株)平塚富士キッチン)

業務内容	飲食業（平塚市）	
法人形態	一般法人	
農業参入時期	令和2年10月	
参入市町村	茅ヶ崎市	
参入規模	46a（農業用ハウス24a）	
主な栽培品目	トマト	
農地中間管理事業	利用なし	
参入経緯	<p>飲食店などを経営し、経営の拡大として元々食に関する事業をやりたいと考えている中、今後5年、10年度後を見据えて川上の事業に挑戦したいと思い農業参入の検討を始めた。</p> <p>地域の農地が減少する中、経営理念である『未来の幸せを共に育む』を果たし地域農業への貢献ができること、地元の安全安心かつ新鮮な生産物を経営する店舗で提供できることから、地元湘南での農業参入を決意した。</p>	
経営状況	<p>農業経営は農業系コンサルタント会社の技術支援を受け、太陽光利用の環境制御型農業用ハウスを利用した高収量型農業による儲かる農業を目指している。</p> <p>生産する品目はトマトで、経営する店舗では採れたて新鮮な状態での提供を行う。生産量は年間35トンを目指し、経営する店舗だけでなく、地域のスーパー、直売所やマルシェでの販売をしている。また、トマトを加工したジュース販売に取り組み6次産業化への展開を進めている。</p>	

企業等の農業参入の事例

作成:令和3年10月

ゴルフ練習場関連からの農業参入：(有)櫻井牧場 (サクライターフファーム)

業務内容	サービス業（藤沢市）	
法人形態	一般法人	
農業参入時期	令和3年4月	
参入市町村	藤沢市	
参入規模	参入時26a	
主な栽培品目	天然芝	
農地中間管理事業	利用なし	
参入経緯	<p>ゴルフ練習場経営の関連会社として、天然芝の自社生産を目指して農業参入の検討を始めた。また、近くの農地が耕作放棄されていく中、耕作放棄地を利用することで、地域社会に貢献できることも農業参入を後押しした。</p> <p>元々、ゴルフ練習場の芝の育成・管理などに関わっていたが、一年の間、茨城県の芝農家で研修受け、更なる技術習得のうえで農業参入を果たした。</p>	
経営状況	<p>農地借入をした約26aで天然芝の生産をし、関連会社であるゴルフ練習施設へ出荷をしている。今後は規模拡大を進め、関連会社へのお荷だけでなく、新たな販路拡大を目指し、収益性を高めることを目指している。</p> <p>農業研修の経験から、将来的には新たに芝農家を目指す者の研修受け先としての役割を担うことを考え、認定農業者を目指すことを検討している。</p>	

企業等の農業参入の事例

作成:令和3年10月

ITシステム開発業からの農業参入：(合同) REPOC

業務内容	ITシステム開発・IT教育コンサルティング(東京都)	
法人形態	一般法人	
農業参入時期	令和3年6月	
参入市町村	大磯町	
参入規模	参入時15a ⇒ 現在20a	
主な栽培品目	少量多品目 40種	
農地中間管理事業	利用なし	
参入経緯	<p>耕作放棄地及び遊休農地の有効活用と農家における後継者不足問題を解決するため、都内在住の若者などに対して農業知識・農業経験の場を与え、ノウハウを蓄積することで、地方創生と農業業界の活性化を目指している。そのためにも、都市近郊である大磯町で、農業や畑、野菜などが身近に感じられるような農園運営をスタートすることとした。</p>	
経営状況	<p>農業経営は約15aの農地から開始。現在では20aに農地を拡大し、土壌など地域に適した野菜を探るため40種あまりの少量多品目を生産している。生産物は町内にある直売所で販売を始めているが、今後は経営規模を拡大し、販売チャンネルを増やすことを検討している。将来的には新規就農を希望する者の受け皿や、多くの若者に農業に興味を持つ機会を創出するための市民農園を開設し、農業業界を盛り上げることを計画している。</p>	